

中外製薬のサステナビリティ全体像

ESG活動推進の背景

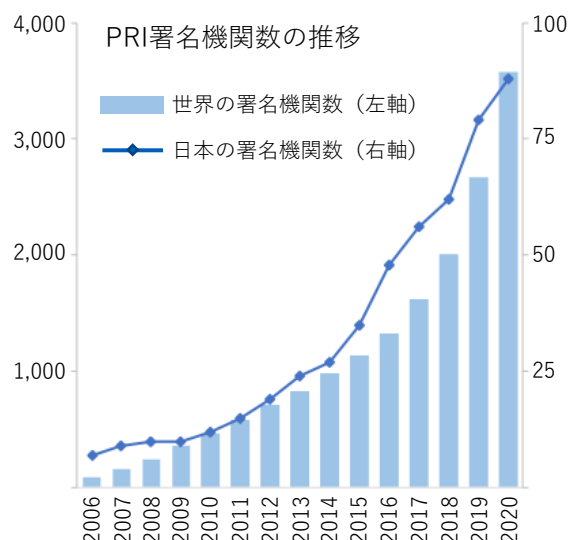
世界的なESG投資拡大の潮流

国連のSDGs（持続可能な開発目標）に代表されるように、地球環境や社会のサステナビリティ（持続可能性）が世界的な重要課題となっています。資本市場においても、従来の財務情報だけでなく、E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)要素も考慮したESG投資が拡大しています。これはESGを投資プロセスに組み入れる「責任投資原則」(PRI)に賛同するPRI署名機関が増加していることが契機となっています。

ESG指数をもとにした長期投資の重要性

ESG投資の拡大によって持続可能な社会を形成するという考えが普及し、世界最大級の運用資産額を誇る年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）においても積極的なESG投資を行っています。GPIFでは、その運用プロセス全体を通じ、186兆円の全運用資産でESGを考慮した投資を推進するほか、狭義のESG投資ともいえる、ESG指数に基づく運用資産額も約10.6兆円となっています。そのため、企業をESGの観点で評価するESG指数の重要性はますます高まっていると云えます。

出典：GPIF『2020年度ESG活動報告』
https://www.gpif.go.jp/investment/GPIF_ESGReport_FY2020_J.pdf



出典：経済産業省ウェブサイト
(PRIウェブサイトより経済産業省作成)
https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/esg_investment.html

参考：中外製薬のESG外部評価

世界的なESG投資指数DJSI Worldに選定 (医薬品セクター、世界2位)



世界の製薬企業の上位9%となるAAを獲得



FTSE 4 Good Index Seriesに18年連続で選定



FTSE4Good

GPIFが選定したESG4指数すべてに採用



FTSE Blossom Japan



2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2021 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

その他、環境・人財関連の外部評価



•The inclusion of Chugai Pharmaceutical Co., Ltd. in any MSCI index, and the use of MSCI logos, trademarks, service marks or index names herein, do not constitute a sponsorship, endorsement or promotion of Chugai Pharmaceutical Co., Ltd. by MSCI or any of its affiliates. The MSCI indices are the exclusive property of MSCI. MSCI and the MSCI index names and logos are trademarks or service marks of MSCI or its affiliates.
•FTSE Russell (FTSE International LimitedとFrank Russell Companyの登録商標) はここに中外製薬が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス (ESG) について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

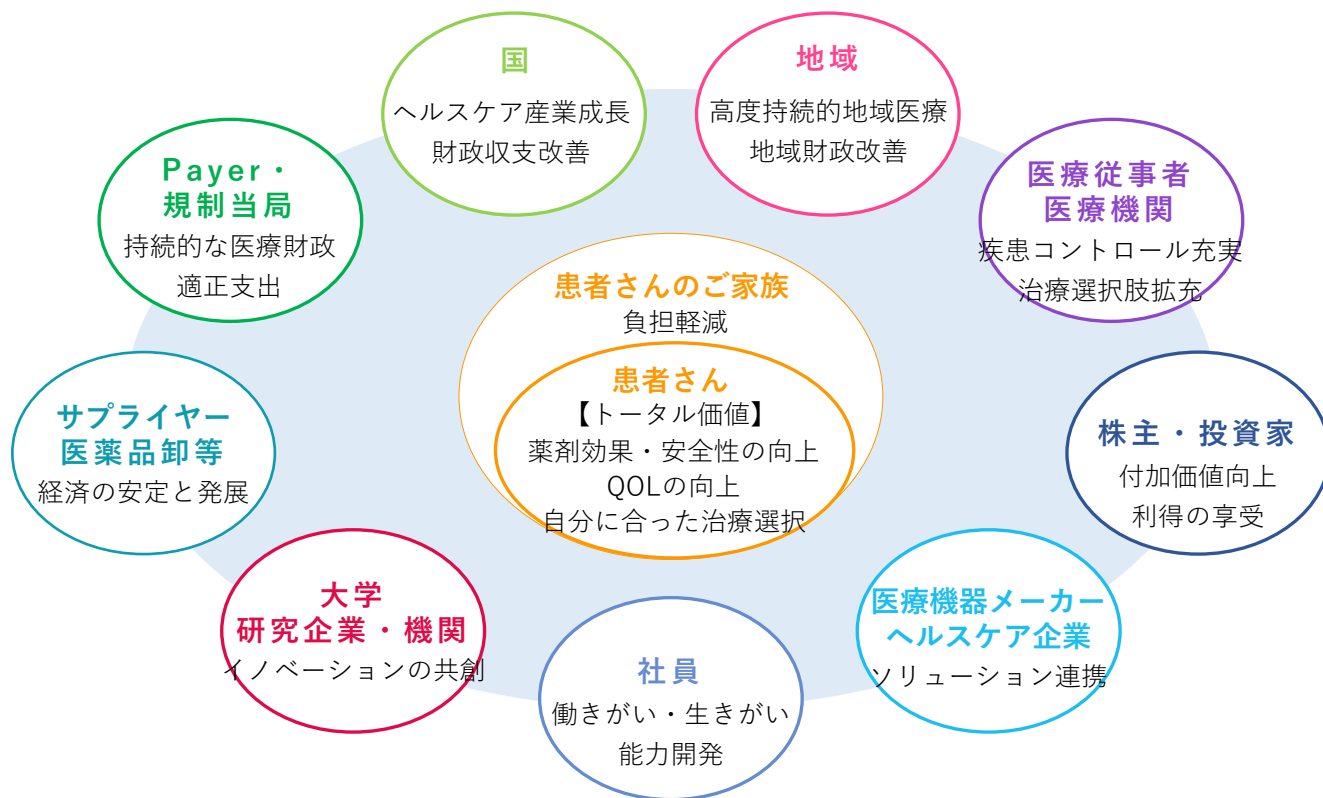
【参考：当社ウェブサイト】社外からの評価
サステナビリティ>社外からの評価 (<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/evaluation/index.html>)

【参考リリース】

- ・2021/07/30 GPIFが採用するすべてのESG投資指数の構成銘柄に継続選定
(https://www.chugai-pharm.co.jp/news/detail/20210730160000_1135.html)
- ・2021/03/22 中外製薬、令和2年度「なでしこ銘柄」に選定
(https://www.chugai-pharm.co.jp/news/detail/20210322150000_1090.html)
- ・2020/11/17 世界的なESG投資指数「DJSI World」に初選定
(https://www.chugai-pharm.co.jp/news/detail/20201117170001_1040.html)

中外製薬の基本方針：共有価値の創造

患者中心の高度で持続可能な医療の実現

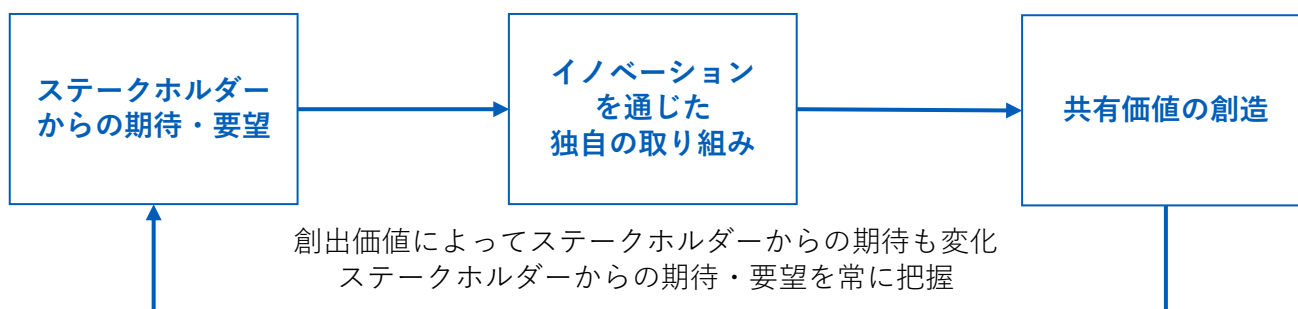


サステナビリティやESG活動が重視される中、中外製薬ではサステナビリティを経営の根幹に据え、いわゆるCSV（Creating Shared Value）と同様の概念である、社会との「共有価値の創造」という経営の基本方針を掲げています。

中外製薬は創業以来一貫して、医療を取り巻くさまざまな人々と協働し、患者さんや医療への貢献に取り組んできた会社です。2019年には、ミッションステートメントの見直しを行い、目指す提供価値を「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」と定めるとともに、それぞれのステークホルダーと創造・共有していく価値も精査・整理（上図）。各々の価値増大を目指した取り組みを進めることとしました。

また、こうした「共有価値の創造」においては、ステークホルダーからの期待・要望の把握を起点としたPDCAサイクルを回していくことが重要です（下図）。さまざまな取り組みを通じて、中外製薬への期待・要望はますます高まっていることから、ESG指数の調査結果などを分析し、社会からの期待・要望に対する継続的な測定に努めています。

【外部からの期待・要望を踏まえたPDCAサイクル】



マテリアリティ（重要課題）について

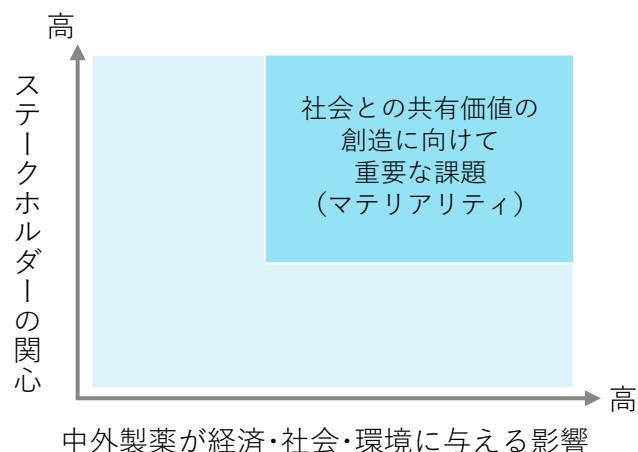
【中外製薬のマテリアリティ（8分野25項目）】

持続可能な医療	コーポレート・ガバナンス	倫理・コンプライアンス	サプライチェーンマネジメント
- 革新的な医薬品とサービスの創出 - 患者ソリューション提供 - 公正なマーケティング - 公正な価格 - 医薬品の副作用マネジメント - 製品の品質保証と安定供給	- コーポレート・ガバナンス - リスクマネジメント - 情報開示と対話	- コンプライアンス - 行動規範 - 公正な取引	サプライチェーンマネジメント
地球環境	人財	人権	社会貢献
- 気候変動対策（エネルギーなど） - 循環型資源利用（水、廃棄物など） - 生物多様性保全（環境負荷低減） - 環境マネジメントシステム	- 従業員の働きがい - 従業員の能力開発 - ダイバーシティ＆インクルージョン - 労働安全衛生の向上	- 人権 - 臨床試験被験者の安全性	- 社会貢献活動 - 保健医療アクセスの向上

マテリアリティとは

「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」に向けて創出価値を増大していくためには、重点的に取り組む課題を明確化し、戦略的な活動を行うことが大切です。そして、その中で特に重要になるのは、社会からの期待・要望や中外製薬が与える影響（インパクト）の観点です。

中外製薬では、「経済・社会・環境に与える影響」と「ステークホルダーの関心」の2軸でさまざまな課題項目を精査し、重要課題（マテリアリティ）として特定しました。これが、上図の8分野25項目のマテリアリティです。



経営におけるマテリアリティの位置づけ

マテリアリティは、企業が取り組む重要課題であり、経営資源を優先的に投下していく分野とも言い換えられます。

そのため、中外製薬のマテリアリティは、成長戦略の前提となるほか、各部門での取り組みのベースとなっています。各マテリアリティで目標を設定すると同時に、地球環境や人財といった一部の項目では中期的な目標指標を設定し、進捗をステークホルダーと共有することとしています。

また、マテリアリティは経済・社会環境の変化とともに定期的に見直すこととしています。2021年から始動した成長戦略「TOP1 2030」策定においても、マテリアリティの再検証を行いました。その内容に変更がないことが確認されました。今後も、定期的に検証を行っていきます。

マテリアリティの策定プロセス

STEP 1 中長期環境分析・リスク機会の抽出

- ・ヘルスケア産業の展望、環境予測
- ・リスクと機会、強み弱み分析

STEP 2 経営方針の検討（経営会議）

- ・経営方針・経営計画策定プロセス決議
- ・ミッションステートメント検討

STEP 3

外部有識者ヒアリング

STEP 4

ギャップ分析 (外部からの要請・他社比較)

- ・Chugai International Council (CIC) や外部コンサルタントからの助言
- ・各種グローバルイニシアチブ、ESG インデックスなどをもとに項目抽出、ギャップ分析実施

STEP 5 解決したい社会課題（提供価値）とマテリアリティの分析

- ・目指す姿と、ステークホルダーごとの提供価値の設計

STEP 6 社内各部門ヒアリング

- ・マテリアリティ案の各部門長・担当役員へのレビューとヒアリング

STEP 7 マテリアリティの特定 (社外取締役・経営会議・取締役会)

- ・経営会議での検討を経て最終化、取締役会にて決議

マテリアリティの策定にあたっては、将来にわたる環境展望・分析を踏まえ、SDGsをはじめGRI (Global Reporting Initiative) やSASB (Sustainability Accounting Standards Board) といった各種グローバルイニシアチブを参照・検証し、社会から期待され求められる課題を網羅的に抽出しながら、中外製薬が十分に満たせていない事項なども精査しました。

また、ステークホルダー視点での重要課題を抽出するため、外部視点を取り入れて客観性のある分析を行うとともに、「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」という目指す姿を実現するためのスコープで整理を行い、8分野25項目のマテリアリティを特定しています。

マテリアリティ策定に関する社外有識者からのコメント



村松 邦子

中外製薬サステナビリティ・
アドバイザリー・コミッティ
メンバー

株式会社ウェルネス・
システム研究所 代表取締役

本マテリアリティの策定プロセスは、網羅性も考慮し、各種インデックスとのギャップ分析や外部の客観的意見を取り入れていることなど、的確に進められたと思います。しかし、何よりも、過去の振り返りや中長期の環境分析を踏まえ、ミッションステートメントの見直しから取り組んだこと、そして社内各部門へのヒアリングや各会議体での議論を通じて決定したことを評価します。これにより、今回の新中期経営計画も、サステナビリティの考え方が組み込まれたものとなりました。

私もアドバイザリーコミッティの一員として、途中段階で意見を申しあげる機会がありましたが、そのときのものより、各項目のつながりが明確で理解しやすいものになったと感じています。単なる形式にとらわれず「何を課題としたいか」「リスクと機会をどうとらえるか」という中外製薬の意志を取り入れたマテリアリティは実効性に期待が持てます。

今後においては、戦略に基づいて課題に取り組んでいくのはもちろんですが、ステークホルダーとの対話が重要です。マテリアリティを踏まえたアニュアルレポートを、社内外の共通言語として活用することで、社内にも浸透を図る。それが「中外製薬ならではのサステナビリティ」をつくることにつながるはずです。期待しています。(2019年3月)

サステナビリティ担当役員のメッセージ



上野 幹夫
代表取締役 副会長

中外製薬は、1925年、関東大震災後の薬不足を憂い、創業しました。以来、この創業の精神を受け継ぎ、度重なる苦難に直面しながらも、ミッションで掲げる「世界の医療と人々の健康」に貢献し続けてきました。しかし、不確実で複雑性が増す経営環境下でミッションを実現するには、より明確な価値創造の道筋を示すことが大切です。そこで、2019年に経営の基本方針として、ステークホルダーとの「共有価値の創造」を基軸に、「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」を目指すことを標榜しました。

私たちの重要なステークホルダーは、医療を取り巻く人々です。患者さんへの貢献は、これらの方々と中外製薬の共通のゴールです。中外製薬が患者さんを中心とした提供価値の追求を高く掲げることは、ステークホルダーとのさらなる協働につながります。これは「持続可能な開発目標(SDGs)」の思想と通じるものであり、中外製薬は特に注力する11の開発目標を定めています。こうした方針もみなさまと共有していきます。

2021年2月に発表した成長戦略「TOP I 2030」は、2030年にトップイノベーター像を実現するという目標のもと、ステークホルダーとの価値共有を一層重視しています。時間軸も10年としており、サステナビリティと成長戦略とが「同じ視座でとらえるもの」から進化し、「一体化」した経営戦略となっています。

また、こうした戦略のもと、中外製薬がこれまで以上に重視していることのひとつが、ステークホルダーとの対話です。社会の変化に対して常にアンテナを張り、開示も充実させ、ステークホルダーからの期待・要望・意見を経営に取り入れていきます。2030年に到達すべき「トップイノベーター像」の中でも、ESG活動により世界のロールモデルとなることを謳っており、こうした発信・対話は、これまで以上に強化していく所存です。引き続きよろしくお願いいたします。

SDGsに対して中外製薬が貢献する11の開発目標



ミッションに直結する
最重点目標 (3)



その実現に必要な
4目標 (8、9、12、17)



事業活動の基盤となる
6目標 (5、6、10、13、16)

【参考】SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

出典：外務省ウェブサイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>



<取材のお申し込み・お問い合わせ先>

中外製薬株式会社 広報IR部

メディアリレーションズグループ

インベスターリレーションズグループ

TEL : 03-3273-0881

TEL : 03-3273-0554

Email : pr@chugai-pharm.co.jp

Email : ir@chugai-pharm.co.jp